

萬鉄五郎 同「男の顔」「風景」外小品  
神津港人 同小品

『国民新聞』に社外より助勢の作とある。

小松喜代子<sup>よし</sup> 水彩「春」「傘を持てる少女」「海辺の町」「静け

き日」

川路柳虹 油画「老爺」「休憩」「緑衣の女」

広川松五郎 同「海の男」「自画像」「おんな」

山口三郎 同「海荒るる日」「砂丘の村」

前田公篤 同

伊藤順三 日本画大作「浅草観音堂」「帰りゆく唄ひ女」外に水

彩画三点

郷倉千鞆 日本画「神様」

広島晃甫 同「雑草園」

塚越東七 彫刻「顔」

幸崎伊次郎 同「W氏像」

井上(直伍カ) 同「姉の顔」

伊藤喬 同「左団次」

高村豊周 西洋名家原型による鑄造「ヴェートローヴェンの顔」鑄

造「円筒花瓶」「睡蓮灰皿」

原三郎 蒔絵菓子盆「ねむの花」

小倉淳 更紗卓袱

堀(義二カ) 雁の水指

柳俊夫 釣燈籠

高村豊周によると黒耀社第二回展は成功裡に終わったが、お祭り気

分的のものになったことを反省して解散し、工芸方面のメンバーのみで柱人社を作ったという。

### ⑧ 設置記念日における河口慧海の講演

大正四年十月四日の本校設置記念日には河口慧海の「西蔵の美術に就て」と題する講演があった。講演筆記は『東京美術学校校友会月報』第十四卷第九号に掲載されている。慧海の本校における講演は明治三十六年に次いで今回が二度目である。

### ⑨ 海野勝珉の卒去

四月より療養中だった本校教授海野勝珉は大正四年十月八日午前一時頃、本所区番場町三八の自邸にて卒去した。この十月四日には、本人は出席できなかったが、勝珉の美校二十五年動統祝賀会が開催されたばかりであった。十月九日付の各新聞には写真入りで勝珉の逝去が大きく報道されている。葬儀は、十日午後二時染井泰宗寺齋場にて執行され、同染井墓地に葬られた。『東京美術学校校友会月報』第十四卷第六号に以下の訃音が掲載されている。

#### 海野教授の卒去 (晁江記)

明治二十三年二月以来本校金工科に教鞭を執りて熱心後進を薫陶せられ、社會にありては、金工界の鉅匠として、人咸な其作の傑出せるを慕ひたる、本校教授帝室技藝員海野勝珉先生は、本年十一月八日病のために俄に卒去せられたり。我校のため美術界のため、洵に痛惜に堪へざるなり。先生の病に罹りたるは本年四月

の頃よりにして、其後一時は輕快に赴かれたりしが、十一月の初  
に及び遽かに危篤に陥り、遂に心臟麻痺を以て起つ能はざるに至  
れり。享年七十有二。病革るや、十一月七日特旨を以て位一級を  
進めて従四位に敘し、同時に勲四等に陞敘せられ、其計の聞ゆる  
や、畏きあたりより祭祭料を下賜せらる。餘榮ありといふべき  
なり。先生は水戸に生れ、其後東京に出て、加納夏雄氏に従ひ  
大に今日の榮譽を博するに至れり。資性恬淡利を外にして克く人  
の爲に盡したる、亦以て其人を高うしたるものあり。〔以下略〕



海野勝珉

勝珉は弘化元年五月十五日に旧水戸藩土海野伝右衛門の次男とし  
て生まれた。幼少の頃から同藩土海野美盛、萩谷勝平らに就き彫金  
を学んだ。明治元年に上京する。庖刀令のために装剣を業とする者  
の多くが失職するなかで、装金の技を美術品に応用することで成功  
した。明治十年以来、内外博覧会に作品を発表し一六四個もの賞牌  
を受けている。明治二十三年、東京美術学校雇となる。加納夏雄に  
師事。明治二十四年  
助教授、同二十七年  
教授となる。在職二  
五年の傍ら、各種競  
技会、博覧会の審査  
員を歴任し、家塾を  
開いて子弟を養成し  
た。

大正八年六月一日には本校構内に勝珉の銅像が設置され、その除  
幕式が挙行された。田口勝山を総代とする門下生および賛同者約五  
百名の醸出金で、本校教授海野美盛が原型を制作（像背面刻書「Y・  
U」）し阿部整美が鑄造（台座背面刻書「整美鑄」）した。

#### ⑩ 東台美術会結成

大正四年十二月十二日、東京美術学校卒業生による東台美術会が  
結成された。これ以前に日本画科卒業生のみによる東台画会があ  
り、明治四十五年、大正二年、同四年と三回展覧会を開いていた  
が、同会も東台美術会に吸収された。

結成の経緯や規則等については『東京美術学校校友会月報』第十  
四巻第七号に次のように記されている。

#### 東台美術会の設立

過ぐる大正三年四月、本校開校滿二十五年祝賀をなすの時に方り  
て、本校卒業生有志諸氏は胥謀り醸金をなして之が祝賀記念のた  
めに、元俱樂部の傍らに接續して、二階建家屋を新築し、同時に  
校友会は元俱樂部の内部を修飾したれば、相俟ちて従來の面目を  
改め、便利にして心地よき建物となりたるを以て、昨大正四年六  
月十二日總會を開き、其名を東京美術学校俱樂部と稱し、其規則  
をも定め、爾來各種の會合に使用せられ、或は地方上京者外國歸朝  
者の宿泊休憩等にも利用せられつゝありしが、其後卒業生中有志  
諸氏は又別に協議する所ありて、其趣意とする所は卒業生に關す  
る各種の事業をなさんとするにありければ、寧ろ此際この俱樂部